

特集号

緑ネット通信

No.60

緑のネットワーク・まつど

代表：藤田 隆
年会費：1000円
口座番号：00170-9-696174
連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

第7回 オープンフォレスト in 松戸



ようこそ！
新緑の松戸の森へ

(甚左衛門の森)



(石みやの森)



(立切の森)



(溜ノ上の森)



(ホダシの森)

7回目を迎えた今年は4月の開催、新緑かがやく明るい松戸の森に子どもたちの声がひびきました。

各森のボランティア仲間で知恵と力を合わせ、地元企業や事業所の協賛、
地権者さんの協力と行政の頼もしいバックアップをいただき、実施されました。

期間中に森や会場を訪れた方は 延べ 2,290 人、受け入れにかかわったボランティアは 延べ470人。

市内に残された貴重な樹林地…みどりの大切さ、素晴らしさを、肌で感じてもらえたことでしょう。

今年も4月開催 …準備はみんなです…

7回目を迎える今年、「森のかわいい花たちを見てもらいたい」「小学校の運動会と公開日が重ならないようにしたい」などの意見から、オープンフォレスト in 松戸2018は4月開催になりました。公開する森は18か所に増えました。

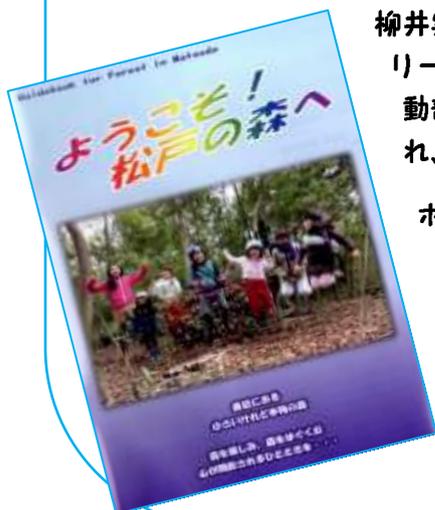
最終日の4月29日は松戸市の緑と花のフェスティバルに重なるため、21世紀の森と広場でみどりのスタンプラリーに協力・実施することでオープンフォレストの最終日としました。

ボランティアが主体的に、そして行政との協働作業で作り上げるイベントです。実行委員会は昨年8月から動き始めました。

柳井実行委員長（千葉大学）と事務局のリードで、各森から担当者が出て、行動部会、広報部会、資金部会に分かれ、力を合わせて頑張りました。

ポスター（右）制作は千葉大学の学生が、アンケート調査は大学院生が関わってくれました。

松戸の森のパフレット（左）はキッズ隊が表紙をかざりました。



森の文化祭 4月13日～15日

森の公開に先立って、21世紀の森と広場のパークセンターで、森の文化祭が行われました。

松戸の里やま保全の様子を伝えるパネル展示、森の恵みを生かした手作り作品の展示、遊ぶおもちゃコーナー、草笛音楽隊の演奏、竹フンや組み紐は作ってお土産にと、公園にお散歩に来た人や家族連れに楽しんでいただきながらオープンフォレストの宣伝をしました。



草笛音楽隊の演奏



伐採された大きなケヤキの一部は、太鼓に姿を変えて生き続けています。



各森の特徴や活動の様子を伝えるパネルが展示されていました。



クラフトに夢中！

ようこそ！ 松戸の森へ



樹齢 200 年の霧島ツツジ
が満開(関さんの森)



木漏れ日の静かな森で (小浜屋敷の森)



わんぱくパラダイス (囲いやまの森)



キンラン
4月の森では花たちも市民を歓迎してくれました。



森づくりの話聞く (ハヶ崎の森)



松戸では 少なくなつたツリバナ



パパ ここは気持ちいいね (囲いやまの森)



森でヨガ (秋山の森)



花盛りの
ジユウニヒトエ



ウグイスカグラの
透明感ある赤い実
は、ほのかに甘い。



竹ボールに入ったよ！ (ホダシの森)



シイタケのコマ打ち (三吉の森)



「ふるさと森の会」会長さんと（三吉の森）



←フェンスの向こうは不法投棄のゴミの山。街中に残る里山の現状を見る。
（しんやまの森）



井戸の水をくむ体験も今はもう貴重だ →
（秋山の森）



明るいイヌシデの森に小さなお客様たち（石みやの森）



公園の森で（縄文の森）



そろそろ交代してよ～（小浜屋敷の森）



ノイバラやミズキの清楚な花が出迎えてくれました。



これはビオネストと言って…（芋の作の森）



あー楽しかった、またこようね！（縄文の森）



撤収作業開始！（みなみの森）



お疲れ様でしたあ～（甚左衛門の森）

森林めぐりツアー



文化財や古墳をめぐるツアーも人気がありました（河原塚古墳の森）



野うさぎの写真を披露（野うさぎの森）



熊野古道のようなわんぱく古道が好評！（市川市わんぱくの森）



「キッズ隊が活躍するエリアです」お客様に説明（みなみの森）



江戸時代の蔵も案内（関さんの森）

再発見ツアー

（芋の作の森、しんやまの森）

森と古墳めぐりツアー

（河原塚古墳の森）

森めぐりツアー

（石みやの森、野うさぎの森、みなみの森、わんぱくの森）

関さんの森自然観察会

（関さんの森、溜ノ上の森）

森と文化財ツアー

（河原塚古墳の森）

駅から森へのご案内もありました

（囲いやまの森、三吉の森、立切の森、しんやまの森、小浜屋敷の森）

みどりのスタンプラリー

最終日は 21 世紀の森と広場で
行われた「緑と花のフェスティバル 2018」でスタンプラリーを実施。これは緑推進委員会からの依頼で行動部会（市民ボランティア）が実施しているもので、これまで、オープンフォレストのPRを兼ねて里やま応援団が協力して実施してきました。今回はオープンフォレスト最終日と言う位置づけ。各ポイントではボランティアの皆さんが手慣れた様子で案内したりスタンプを押したり・・・
青空の下 600 人ほどが楽しく過ごしました。



ハンモックでの～んびり



顕微鏡で虫の見る世界を見る



竹であそぼう



丸太わたり



うちの近くの森は・・・



楽しかった？スタンプを押す



根っこの会は公園緑地課のテントで活躍。たくさんのお子様たちが竹叩き、竹フンフンなどの体験を楽しみました。

オープンフォレストプレ企画ツアー（再発見ツアー45）

「子どもも大人も楽しもう！春の森in松戸」

藤田 隆

4月14日、八柱駅9時30分、日中は気温の上がりそうな陽気に包まれ、芋の作の森、しんやまの森、21世紀の森と広場を訪ねました。参加者は、子ども2人を含む16名。スタッフを入れると28名のグループ。八柱駅から標高差5～6mを一気に下る坂道に「きついね」という声が聞こえました。

千駄堀湧水では川上代表が挨拶。「大地に降った雨水が今でも湧いています」との説明に「へえーっ！」という表情が見えました。

芋の作の森では松戸里やま応援団八輝の会代表の高橋さんが説明し、井上さんが森の案内をしてくださいました。ホウチャクソウ、キンランなど、今を盛りと咲き誇る植物を前に、足が止まり、人を惹きつける植物の魅力を感じました。

しんやまの森では、彦坂代表代行に森の説明をしてもらい、森をゆっくり感じてもらう活動をしました。

「胸の空気を吐いて、吐いて、吐いて、吐き出したら、ゆっくり大きく吸ってみましょう」スタッフの声に促されて、参加者は腰を折って空気を吐きだしていました。森の空気を吸い込んで、森と親しむ森のビンゴゲームをはじめました。



子どもも大人も春の森を楽しみました（しんやまの森）

「ハート形のものを探す」のテーマでは、ドクダミの葉にハート形を見つけ、はしゃいだ様子でした。「やわらかそうなもの」は苦労していましたが、シロダモの若葉をヒントに示すと「ほんとだ」の音が響きました。

今回の再発見ツアーは、森をゆっくり歩く、鑑賞する、宝物を探すという、普段見慣れた風景でも異なる側面があることを感じてもらう企画でした。

普段と変わらないが、こんな秘密が隠されているのかと自分の目を見開くきっかけになるといいなという思いでした。

市外の参加者を募りたいと広報を広げた結果、鎌ヶ谷市、柏市、船橋市、習志野市、白井市、都内、さいたま市から参加者が集まりました。最後に感想を聞くと「松戸は、こんなに森があって緑が深い！」という印象が聞かれました。



花咲く森のご案内（芋の作の森）

総会の報告と新年度のご挨拶

代表 藤田 隆

5月12日の総会で代表を務めることになりました。新たに役員も決まりました。詳しくは総会報告をご覧ください。5月8日、国土交通省の発表によると、緑のネットワーク・まつどが「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞団体に決定しました。2000年4月に発足し、間もなく20周年を迎えます。こうした活動への評価と受け止め、これからもみどりを大切に思う人の輪を広げる活動を続けていきたいと思えます。

★松戸のみどり再発見ツアー46（観察学習会61）

「上本郷～北松戸に残る斜面林や湧水をめぐる」

上本郷～北松戸には今も斜面林や湧水が残されていて、美しい竹林や幕末に吉田松陰が訪れたお寺もあり、市民のよき散策・いこいの場になっています。水戸街道から少し離れた閑静な地区があるき、みどりの大切さについて考えます。

7月8日(日) 9:30～14:00 (小雨実施) 参加費300円 (会員は100円)

集合 新京成線 上本郷駅 改札口 9:30集合 持ち物 飲み物、弁当、雨具

問い合わせ 090-2935-9444 (高橋) その他 歩きやすい服装でどうぞ